

河川事業 再評価

名取川総合水系環境整備事業

【説明資料】

平成29年11月

国土交通省 東北地方整備局
仙台河川国道事務所

名取川総合水系環境整備事業再評価の流れ

(平成10年度) 事業着手

(第3回東北地方整備局事業評価監視委員会)

平成19年12月 事業再評価
名取川総合水系環境整備事業

(平成21年 6月 名取川水系河川整備計画策定)

(平成24年11月 名取川水系河川整備計画変更)

(第10回 名取川水系河川整備学識者懇談会 (前回))

平成26年11月 事業再評価
名取川総合水系環境整備事業

(第12回名取川水系河川整備学識者懇談会 (今回))

平成29年 11月 事業再評価
名取川総合水系環境整備事業

平成29年度 東北地方整備局事業評価監視委員会において、本結果を報告予定

H22.4.1以前
再評価 5年毎

平成22年4月1日
公共事業評価実施要領改定
(再評価サイクル短縮等)

H22.4.1以降
再評価 3年毎

平成25年11月1日
平成26年4月15日
費用対効果分析の効率化に関する運用

【事業の目的】

- 名取川は、比較的良好な自然環境を有している一方、堤内地は市街化が著しく、河川空間は都市における貴重な空間となっており、身近な自然とのふれあいの場として活用するとともに、沿川住民の憩いの場として位置付けられている。
- 渇水等においても、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全のため、流水の正常な機能を維持し、人々の生活に欠かせない各種用水の確保を図るよう、限りある水資源を有効に配分、活用する必要がある。

「名取川水系河川整備計画」の基本理念に基づき、水辺整備、水環境に関する事業を実施。

水辺整備

- 河川環境を活用した地域住民等の余暇活動及び自然体験活動等の充実
- 誰もが安心して川で遊び、学び、親しめるように親水護岸、散策路等の整備の実現
- 観光など地域活性化につながる地域資源等を活かした魅力ある河川空間の形成

水環境

- 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全、水質の保全、用水の安定的な取水など、流水の正常な機能の維持により、良好な水環境の保全を図る。



平成6年 渇水写真



渇水に係る新聞記事

【事業の内容・効果】

水辺整備

《事業の内容》

水辺の楽校

仙台市と連携した自然環境学習のフィールドとして親水性、利活用に配慮した環境整備を実施



緩傾斜堤防、階段、坂路、高水敷整正

《事業の効果》

- 水辺空間の整備により環境学習等様々なイベントが開催され、地域の活性化に寄与している。
- 日常においても水辺が利用され、地域の人々の余暇活動等に寄与している。
- 整備済み箇所の利用者数は整備前後で1.7倍増加している。



水生生物調査(総合学習)



ざらかわフェスティバル

河道整備

環境教育に寄与する自然的で、親水性のある水辺空間を創出



ワンド



親水護岸、高水敷整正

利用推進

安全でスムーズに水辺に近づける施設整備を実施

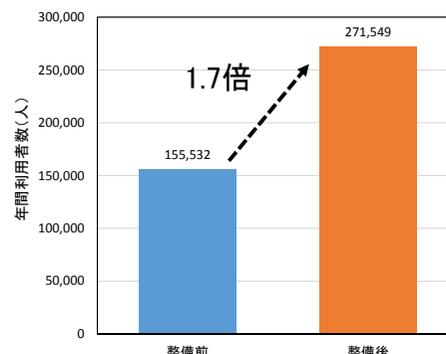


緑化護岸、階段、坂路、散策路



親水護岸、階段、坂路

水辺整備事業年間利用者数(整備済み箇所)



整備前後における利用者数合計値の変化 (河川空間利用実態調査 H9-H26)

上表はH9～H26に実施した河川空間利用実態調査結果を用い、整備済地区(5地区)の整備前・整備後それぞれの年間利用者数の平均を合算したものの。

水環境

水環境整備・改善

広瀬川地区

名取川から水を導水し、広瀬川及び旧笹川の水量を確保する施設整備を実施

《整備の内容》

- 導水施設(取水ポンプ場)
- 流量観測施設
- 逆流防止施設
- 釜房ダムを活用した水量確保(H14～23)

《整備の効果》

- 導水により生態系の保全が図られ、良好な景観も保全されるなど、環境維持に寄与している。



導水施設(取水ポンプ場)



逆流防止施設

水辺整備

【事業の目的】

かわまちづくり

閑上地区

- 閑上地区は、名取川河口部に位置し仙台湾や貞山運河などの水辺に接し、かつて川港であった閑上漁港とともに発展した地域で「ゆりあげ港朝市」、「サイクルスポーツセンター」、「ゆりあげビーチ」、「なとり夏まつり」など、市内外から数多くの人々が訪れる活気ある交流拠点であった。
- しかし、東日本大震災の地震・津波により、建物の流失や損壊など壊滅的な被害を受けた。
- 名取市は、震災復興計画により市民生活の早期再建はもとより、賑わいを取り戻すために、新たな観光・交流拠点の形成を位置付けて様々な取り組みが進められている。
- 名取川堤防の背後では「復興土地地区画整理事業」が進められており、まちづくりと一体となった河川空間を整備し、市民とともに水辺空間の利活用を図り、賑わいを創出を図るものである。

震災前の閑上地区の賑わい



震災前の閑上地区 (H21年10月撮影)



ゆりあげ港朝市



船を使用したイベント(閑上~仙台湾空港)



なとり夏まつり(閑上漁港と花火大会)



ゆりあげビーチ

水辺整備

【事業の内容】

かわまちづくり

閑上地区

- 名取市では水辺を活かした新たな観光・交流拠点として、**水辺のにぎわい拠点(商業施設等)**や**舟運による観光ルート**の形成を目指していることから、市の事業と連携し、親水護岸、側帯、階段、坂路、高水敷整正の整備を実施中である。
- なお、施設整備計画や利活用・維持管理方法について、地元関係者、学識者、名取市、河川管理者等で組織する検討会により検討を重ねた結果、当初計画に対して施設配置、規模などに**変更が生じたこと**から、**計画内容及び事業費の変更**を行う。

《整備内容》

国	○親水護岸(船着場、テラス)、○側帯、○高水敷整正、○階段、○坂路【事業費 470→440百万円】
名取市	○植栽整備、○休憩施設、○案内看板、○照明施設、○多目的広場【事業費 70百万円】



にぎわい拠点整備イメージ



閑上 多目的広場整備イメージ



凡例(施設)

△	: 坂路
▽	: 階段
▨	: 側帯
—	: 管理用通路

凡例(色)

□	: 当初どおり
■	: 今回追加
■	: 今回削除

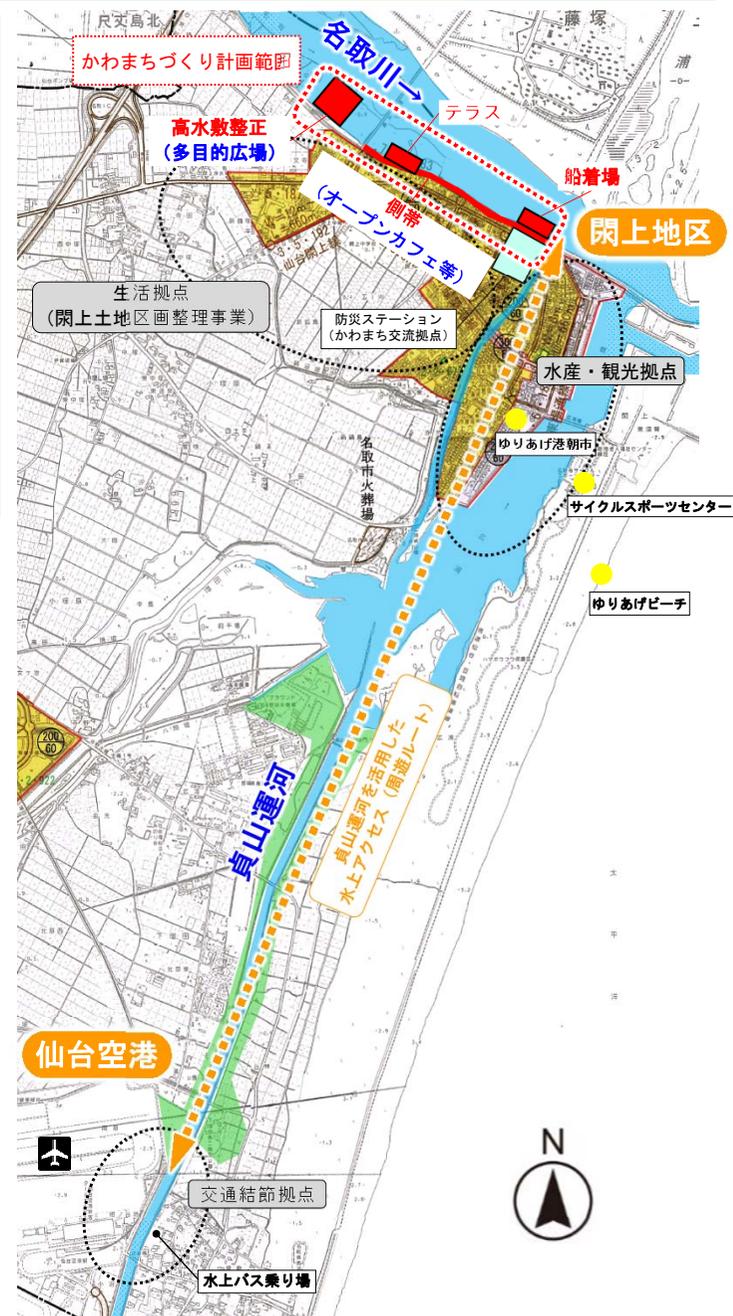
水辺整備

【期待される事業の効果】

かわまちづくり

閑上地区

- にぎわい拠点の商業施設利用を目指し、名取市では「かわまち て・ら・す閑上」の出店者を募集し20社を超える出店が決定。平成31年度春のオープンを目指している。
- また、舟運による新たな観光ルートとして、閑上地区と仙台空港を結ぶ水上バスルートの運行を目指し、平成29年度秋から事業者を募集が行われている。
- さらに、水辺空間を活用した「なとり夏まつり」の復活や、「ゆりあげ港朝市」、「サイクルスポーツセンター」などの観光拠点との周遊性向上、日常の散策などにより、かつての水辺のにぎわいを取り戻すとともに、市内外からの交流人口の増大が期待される。



笑顔が照らす 憩いのテラス
かわまち て・ら・す 閑上
(平成31年春オープン予定)

出店者募集中!
(平成29年5月31日(水)まで出店者を募集しています)

場内南側(まち側)の道路を挟んだエリアには、飲食店と小売店が並びます。小売店の一部はテラスロードモール型の共同店舗に出店予定です。

かわまち て・ら・す 閑上

名取川沿いのロケーションの良い場所には景色を眺めながら飲食を楽しむ飲食店やテラスコートが並びます。

新たな歴史を刻む街 いっしょに歩いてみませんか?

ご興味をお持ちの方はお気軽にご相談ください。

問い合わせ先: 閑上地区まちづくり会社設立準備会
(事務局 名取市震災復興部復興調整課企画総務班 草野)
住所: 名取市増田字柳田 570-2
TEL: 022-290-2085 FAX: 022-383-2383

出店者募集 (出典:名取市HPより)

宮城県名取市
平成29年度 貞山運河舟運事業
の事業者を募集します

名取市では交流人口の拡大を目指して貞山運河を活用した舟運事業の実施を検討しており、平成29年度に本事業の実施主体となる運行事業者を公募いたします。
本事業の詳細については、固まり次節市のホームページ等でお知らせしますが選定事業者には、運行に必要な諸手続きの支援、船舶取得、船の積装及び関連設備の購入補助等を行います。
また、公募要領の策定にあたっては、本事業に関心のある団体・企業等の方々のご意見・ご要望等を取り入れたと考えており、一例として、舟運事業と併せて周辺公共空間を商業利用するなど、関連事業を含めた事業計画も歓迎いたします。
本事業に関心をお持ちの方は、下記担当課までお問い合わせください。

＜イメージ図＞
＜ゆりあげ港朝市＞
＜震災前 貞山運河＞
＜イメージ図＞
＜震災前 広瀬の入り江＞

連絡先 名取市震災復興部復興調整課企画総務班
住所: 名取市増田字柳田 570-2
TEL: 022-290-2085 FAX: 022-383-2383

舟運事業者募集 (出典:名取市HPより)

事業の進捗状況

【事業の進捗状況】

【事業実施状況(平成29年度末時点)】

- (1) 全体事業費: 約24.5億円
- (2) 整備済み事業費: 約23.6億円
- (3) 進捗率: 全体の約96.3%
- (4) 残事業費(整備中): 約0.9億円

【今後の事業の見通し】

- 全体計画7箇所のうち、平成28年度までに6箇所が完成している。
- 「閑上地区かわまちづくり」は、安全かつ賑わいのある水辺空間の創出を図ることを目的に、平成27年度に事業に着手した。地元関係者、学識者、名取市と連携し、「水辺を活かしたまちづくり検討会」、「閑上地区かわまちづくり検討部会」、「閑上地区かわまちづくり推進WG」を開催して整備内容、管理運用について検討を行い、平成30年度の整備完了を目指している。また、整備完了後もモニタリング・分析評価等を実施し、平成35年度に完了する予定である。

費用便益算定

【前回からの主な変更点】

■費用算定方法の相違

	今回の検討(H29)	前回の検討(H26)
事業箇所	・整備済み 6地区 ・整備中 1地区	・整備済み 6地区 ・整備予定 1地区(追加)
全体事業費	約24.5億円(現在価値化前) (以下の事業の事業内容変更による事業費の見直し) ■閑上地区かわまちづくり : 30百万円減	約24.8億円(現在価値化前)
維持管理費	約16.5百万円(現在価値化前 年間の維持管理費) ■閑上地区かわまちづくり事業費の減少による維持管理費の減少 (閑上地区かわまちづくり維持管理費=事業費の0.5%)	約16.7百万円(現在価値化前 年間の維持管理費)

■便益算定方法の相違(閑上地区かわまちづくり:TCM→CVM)

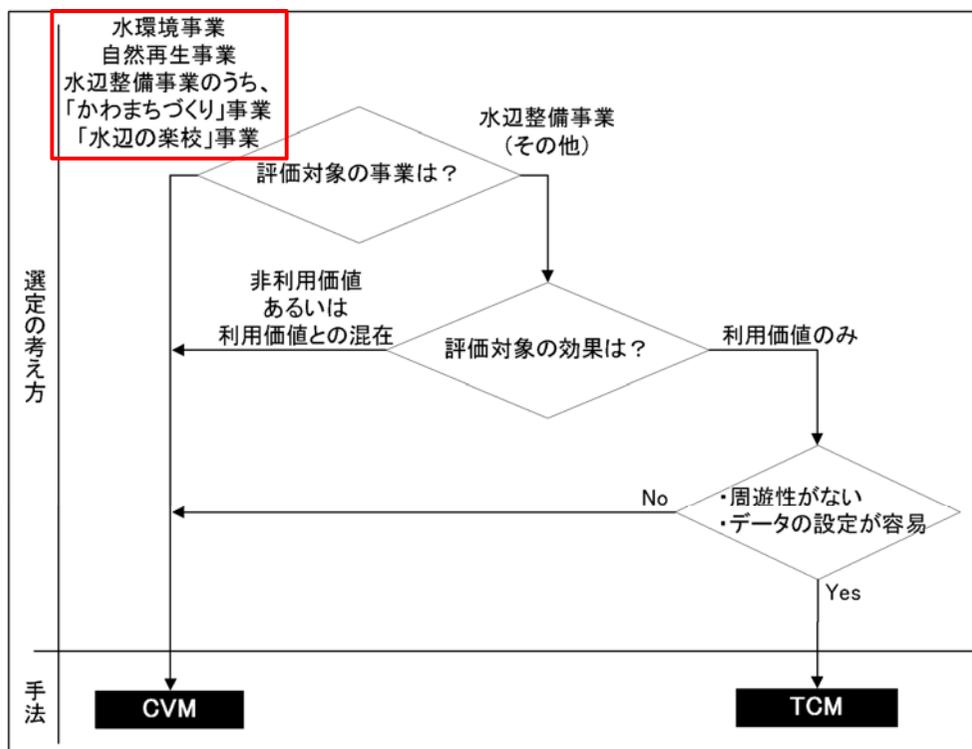
	今回の検討(H29) CVM	前回の検討(H26) TCM
集計範囲	事業箇所から10km圏内 (H29プレ調査結果より設定)	■TCMにより算出 ・市町村人口 : 宮城県 住民基本台帳人口(2014年) ・移動単価 : 8.0円/km ※H25.3普通/小型自動車及び軽自動車平均燃費13.92km/l(実燃費考慮)、宮城県H21-H25平均ガソリン価格141円/l、H22道路交通センサス宮城県平均乗車人数1.27人/トリップより算定 ・時間単価 : 16.4円/分 ※H25毎月勤労統計調査地方調査・宮城県5人以上の事業規模平均値より算定
対象世帯数	150,085[世帯] 事業箇所から10km圏内に含まれる地区の世帯数	
アンケート調査	有効回答400票程度を目標に、プレ調査の回収率・有効回答率から設定した2,000票(住民基本台帳より抽出) 回答数: 780票	
支払意思額	413[円/月・世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答471票からの平均支払意思額	

費用便益算定

【前回からの主な変更点】

■ 便益算定方法の相違(閑上地区かわまちづくり:TCM→CVM)

○ 評価手法の全国統一により、周遊性向上が図られるかわまちづくりについては、CVMにより便益を算定することとされたため、今回評価よりCVMにて便益を算定した。



CVM	TCM
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主として、非利用価値のみか、利用価値と非利用価値が混在した効果(事業)における適用。 ○ 原則的には、水環境事業、自然再生事業、水辺整備事業のうち、周遊性向上が図られる「かわまちづくり」事業、生物の生息・生育環境の保全や生物多様性の増加、良好な景観の形成等がみられる可能性が高い「水辺の楽校」事業において適用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用価値のみである効果(事業)における適用。 ○ ただし、複数目的を有する旅行者が存在するような効果(事業)や、利用頻度に関するデータ設定が困難な場合には、適用が困難であるため、CVMによる計測が必要。 ○ 水辺整備事業のうち、「かわまちづくり」、「水辺の楽校」以外の事業(ダム環境整備事業および事業内容が未確定な事業)については、個別に周遊性やデータ利用の容易性、非利用価値への影響を判断した上でTCMを選定。

便益算定手法の選定の考え方

河川に係る環境整備の経済評価の手引き【本編】平成28年3月一部改定(P.17)

事業の投資効果

【費用便益比】

- 全体事業の費用便益比(B/C)は**11.0**、残事業は**79.1**、完了地区は**9.0**、と算定。いずれも1を上回っていることから投資効率性が良い。
- 投資効率の感度分析では、全体事業及び残事業ともに判断基準1.0を上回る。
【全体事業:B/C=9.8~12.2、残事業:69.7~85.2】

【費用便益比 (B/C) の算出】

		今回の評価(H29)			前回の評価(H26)		
		全体事業	残事業	完了地区	全体事業	残事業	完了地区
費用	総費用C	52.8億円	1.9億円	47.6億円	47.3億円	4.7億円	42.6億円
	建設費	41.0億円	1.4億円	36.3億円	36.5億円	4.3億円	32.3億円
	維持管理費	11.7億円	0.5億円	11.2億円	10.8億円	0.4億円	10.3億円
効果	総便益B	579.5億円	149.8億円	429.6億円	392.6億円	10.7億円	382.0億円
	便益	579.4億円	149.8億円	429.5億円	392.5億円	10.7億円	381.9億円
	残存価値	0.1億円	0億円	0.1億円	0.1億円	0億円	0.1億円
費用対便益比(CBR) B/C		11.0	79.1	9.0	8.3	2.3	9.0
純現在価値化(NPV) B-C		526.7億円	147.9億円	382.1億円	345.3億円	6.0億円	339.4億円
経済的内部収益率(EIRR)		33.8%	220.5%	33.7%	33.6%	10.2%	33.7%

注: 表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある

【感度分析 (全体事業)】

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+2年	-2年	+10%	-10%
総費用C(億円) (現在価値)	52.8	52.9	52.6	52.7	—	52.8	52.8
総便益B(億円) (現在価値)	579.5	579.5	579.5	574.8	—	642.0	517.0
費用便益比 B/C	11.0	10.9	11.0	10.9	—	12.2	9.8

【感度分析 (残事業)】

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+2年	-2年	+10%	-10%
総費用C(億円) (現在価値)	1.9	2.1	1.7	1.8	—	1.9	1.9
総便益B(億円) (現在価値)	149.8	149.8	149.8	145.2	—	161.5	132.1
費用便益比 B/C	79.1	73.1	86.1	79.8	—	85.2	69.7

● 表中の赤字: 費用便益比が最大、表中の青字: 費用便益比が最小

地域の協力体制等

【整備済み地区における住民団体やNPO団体、学校等による活動】

- 整備済箇所では、**日常的な親水活動やイベント、総合学習**の場として利用されているほか、地区町内会や市民団体等による積極的な維持管理が実施されており、地域との協力体制が構築され、河川利用及び河川愛護の機運が高まってきている。
- 地元団体による**清掃活動が継続的に実施**されている。



広瀬川地区 水辺の楽校

水生生物調査



広瀬川1万人プロジェクト
河川清掃



出典：広瀬川の清流を守る会ホームページ

広瀬川の清流を守る会
河川清掃



笹川地区 利用推進

日常的な親水活動
(生物採集、水あそび)



笹川の河川清掃



笹川地区 利用推進

ざるかわフェスティバル

地域の協力体制等

【整備中地区における活動】

- 閑上地区かわまちづくりに関し、**地元関係者、学識者、名取市、河川管理者等が連携して整備内容、運用方針等を検討した。**
- 名取市により、閑上地区背後地の復興まちづくりが進められている。
- 閑上地区、広瀬川をはじめとした名取川水系を対象に**ミズベリングの活動が進められている。**

【各種主体と連携した検討会】

検討会等	検討内容等
水辺を活かしたまちづくり検討会	施設整備計画の策定、維持管理計画の提案
閑上地区かわまちづくり検討部会	具体的な整備内容を検討
閑上地区かわまちづくり推進WG	施設整備、管理運用の検討・調整

- 閑上地区かわまちづくり推進WGにて、運用計画及び運用維持管理方針(案)が策定されている。また、にぎわい拠点については、平成29年9月に設立された閑上地区のまちづくり会社である「株式会社かわまちてらす閑上」により、施設設計等が進められている。

会社名称	株式会社かわまちてらす閑上
事業内容	共同店舗、集合店舗等の商業施設に係る企画、貸借、所有並びに管理及び利用 各種プロモーション業務、印刷物の企画制作及び出版並びに販売



【閑上地区の復興まちづくり】

- 名取川堤防背後の閑上地区では、名取市により復興まちづくりが進められており、復興公営住宅が順次完成し、平成29年7月より入居が開始されている。また、小中一貫校の開校が平成30年4月に予定されている。

復興公営住宅



出典：ゆりあげ区画整理通信(名取市)

小中一貫校



出典：ゆりあげ区画整理通信(名取市)

【ミズベリングの活動】

- 閑上地区、広瀬川においてミズベリングの活動が行われており、また、名取川水系全体での交流と連携の場として「ナトリBA」が開催されている。

ミズベサロン閑上



ミズベサロン広瀬川



水辺を活かしたまちづくり検討会



閑上地区かわまちづくり検討部会



閑上地区かわまちづくり推進WG

県からの意見

【県からの意見】

●宮城県知事からは事業継続に対して異議はない旨の回答を頂いている。


東北地方整備局
東整企画第40号
29年10月30日

土 総 第 2 6 2 号
平成29年10月30日

国土交通省東北地方整備局長 殿

宮城県知事 村 井 嘉 浩 

東北地方整備局所管の再評価対象事業の対応方針（原案）の作成に係る意見
照会について（回答）
本県の土木行政につきましては、日頃格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、平成29年10月4日付け国東整企画第72号で依頼のありましたこのことにつ
ては、下記のとおりです。

記

1 対象事業
名取川総合水系環境整備事業

2 意 見
「対応方針（原案）」のとおり「継続」で異議ありません。

対応方針(原案)

①事業の必要性に関する視点

- 整備済みの箇所では、日常的な親水活動やイベント、総合学習の場として利用されているほか、地区町内会や市民団体等による積極的な維持管理が実施されており、地域との協力体制が構築され、河川利用及び河川愛護の意識が高まってきている。
- また、導水によって渇水時でも生態系や景観が保全され、環境維持に寄与している。
- 整備中の閑上かわまちづくりにおいても、様々な主体の連携により整備等が進められている。
- 名取川、広瀬川を対象としたミズベリングの活動が始動し、ミズベサロン等を開催して多くの参加者により水辺の利活用等について活発な議論がなされている。
- 事業の投資効果を評価した結果、費用便益比(B/C)が全体事業では11.0、残事業では79.1となっており、今後も投資効果が期待できる。

②事業の進捗の見込みの視点

- これまでに全体計画7箇所のうち6箇所が完成し、進捗状況は全体の96.3%(事業費で算出)であり、整備予定箇所においても、地元自治体と連携しながら関連事業と一体的に推進することにより、今後も円滑な事業実施が見込まれる。
- 整備完了後5年間のモニタリング・分析評価等を行い、平成35年度に完了する予定である。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- 閑上地区かわまちづくりにおいて、建設資材(現場発生品のコンクリートブロック)の再利用をすることでコスト縮減を図っている。
- 維持管理において、地域団体により清掃活動に協力を頂いている。

④地方公共団体等の意見

- 宮城県知事の見解として、事業の継続に異存ない旨の回答をいただいている。



以上より、今後の事業の必要性、重要性に変更はなく、費用対効果等の投資効果も確認できることから、名取川総合水系環境整備事業については『事業継続』が妥当である。

【参考】総合水系環境整備事業について

【事業内容】

■水辺整備

(水辺の整備に関する事業)

賑わいのある水辺の創出、
環境学習の場となる水辺の
整備、まちと水辺が融合した
良好な空間形成等

- 水辺プラザ
- 水辺の楽校
- かわまちづくり



■自然再生

(自然の再生に関する事業)

自然環境の保全・復元のため
の河道整備、魚類の遡上
困難な施設の魚道整備等

- レキ河原再生
- 魚の上りやすい川づくり



■水環境

(水質や水量に関する事業)

河川の水質・水量改善に関
する対策等

- 導水施設(取水ポンプ場)
- 環境用水の導水



導水による流況改善
(上:整備前、下:整備後)

【参考】費用便益分析

【費用対効果分析】

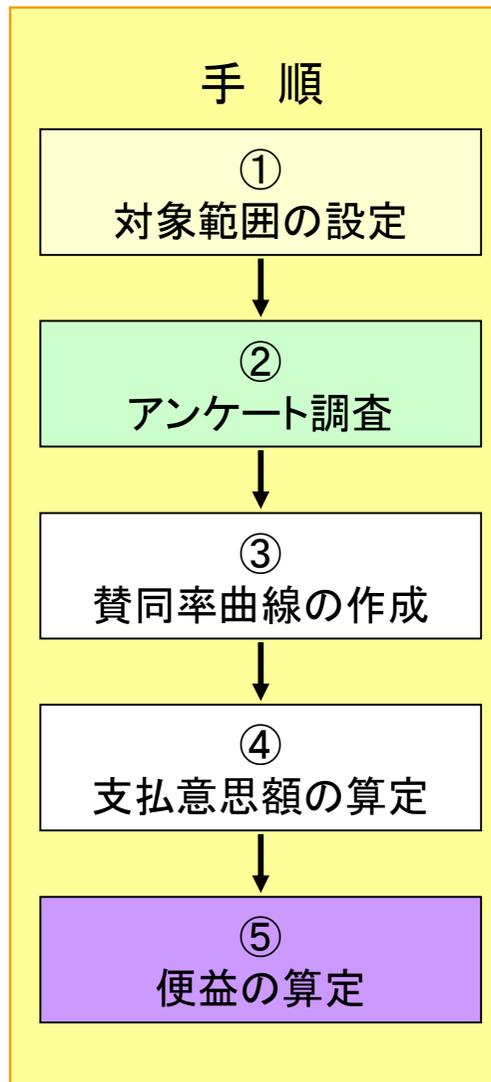
「費用便益分析」: 投資する費用に対する、整備による効果・メリットについて、お金の換算して、事業の効率性について評価するもの

「便益」	◆評価手法	便益の評価手法は、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」等に基づき、事業の特性等を踏まえて選定。 ○水辺整備事業(閑上地区かわまちづくり) : 利用価値と非利用価値が混在しているため 「CVM法」 を適用。
	◆残存価値	評価期間終了後における残存価値は、「治水経済調査マニュアル(案)」の護岸等の構造物に準じて、総費用の10%を計上。
「費用」	◆建設費	「整備済みの箇所」については実績額を計上し、「整備中の箇所」については実績額及び計画額を計上。
	◆維持管理費	「整備済みの箇所」については実績の維持管理費に基づき設定し、「整備中の箇所」については事業費の0.5%を計上。

【参考】費用便益分析

【CVM法(仮想市場法)】

- 閑上地区かわまちづくりの費用便益分析の手法として、CVM法を用いている。
- 評価対象の内容を説明した上で、整備にかかる費用を支払う意思を確認し、支払っても良いと考える金額(支払意思額)を直接的に質問し、評価する手法。



■ 閑上地区かわまちづくり

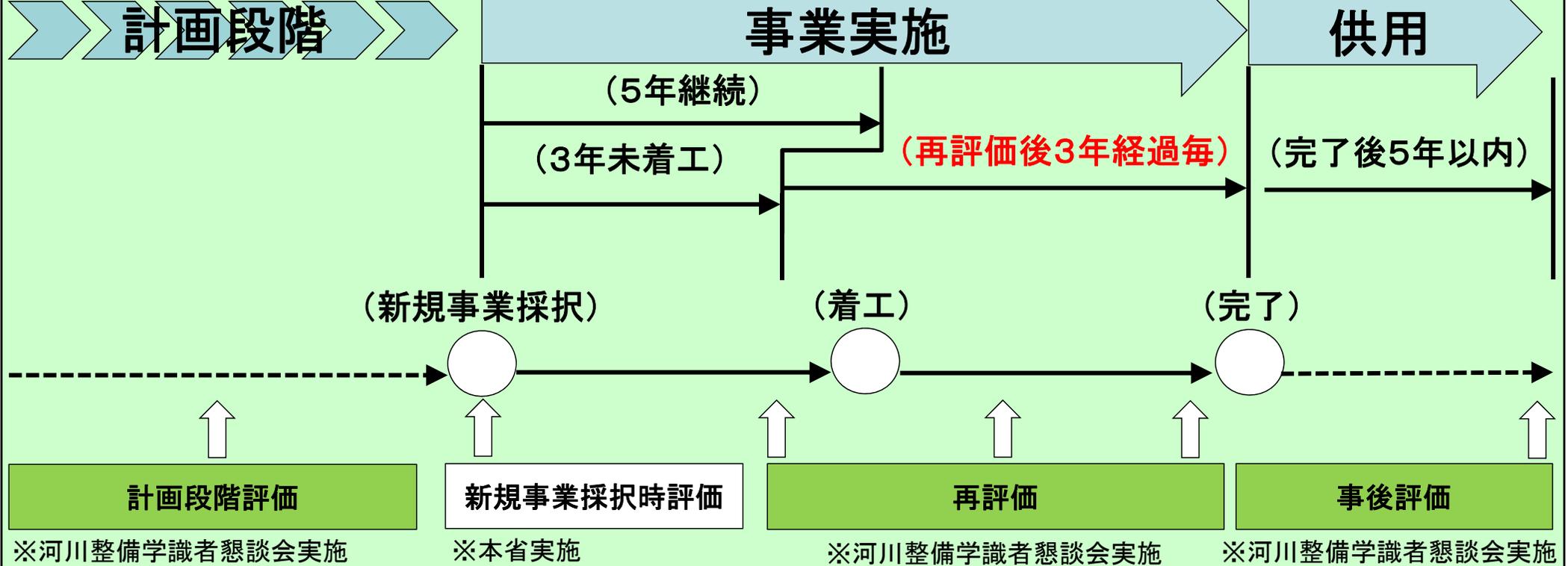
- ・ プレ調査の結果から、現地利用者の多くが居住する事業箇所から10km圏内を対象範囲として設定。
- ・ 150,085 [世帯]が対象

支払意思額
平均値 413[円/月・世帯]



【参考】公共事業評価の流れ

<事業進捗と事業評価の流れ(公共事業(直轄河川事業等))>



【計画段階評価】

新規事業採択時評価の前段階において、政策目標を明確化した上で、複数案の比較・評価を行うもの。

【新規事業採択時評価】

新規事業の採択時において、費用対効果分析を含め総合的に実施するもの。

【再評価】

事業継続に当たり、必要に応じて見直しを行うほか、事業の継続が適当と認められない場合には事業を中止するもの。

【再評価後3年経過した事業:名取川総合水系環境整備事業】

【完了後の事後評価】

事業完了後の事業の効果、環境への影響等の確認を行い、必要に応じて、適切な改善措置、同種事業の計画・調査のあり方等を検討するもの。

【参考】事業再評価における新たな取り組み(平成25年以降通知)

1. 国土交通省所管公共事業の再評価実施の効率化(H25.11.1通知)

○費用対効果分析の要因(事業目的・社会経済情勢・需要量・事業費・事業展開)に変化が見られない場合で、かつ、事業規模に比して費用対効果分析に要する費用が著しく大きい等費用対効果分析を実施することが効率的でない判断できる場合、費用対効果分析を実施しないことが可能

2. 再評価実施要領の運用及び事業評価監視委員会の重点化(H26.3.31事務連絡:H26.4.1以降適用)

○前回評価時において実施した費用対効果分析の要因に変化が見られない場合等については、費用対効果分析を実施せず、前回評価時の費用対効果分析結果を適用する。

なお、残事業の分析結果が問題となる可能性のある事業は、費用対効果分析を実施

3. 河川事業(ダム・砂防・地すべり・海岸事業含む)の費用対効果分析の効率化に関する運用(H26.4.15通知)

○需要量の変化が見られないケース

需要量等は前回評価時からの総便益の減少を求め、減少率が10%未満である場合

●事業進捗等に伴う確認

・前回評価と今回評価との間で、事業進捗の節目(河川改修事業におけるブロック単位での河川改修の完了や環境整備事業における水系内の新規箇所への着手等)や整備、計画目標流量の変更等、事業全体または残事業の便益に大きな変動が予想される場合は上記に関わらず費用対効果分析を実施

⇒**閑上地区かわまちづくりの事業費が変更**

⇒**今回費用対効果分析を実施**

○費用対効果分析を実施することが効率的でない判断できるケース

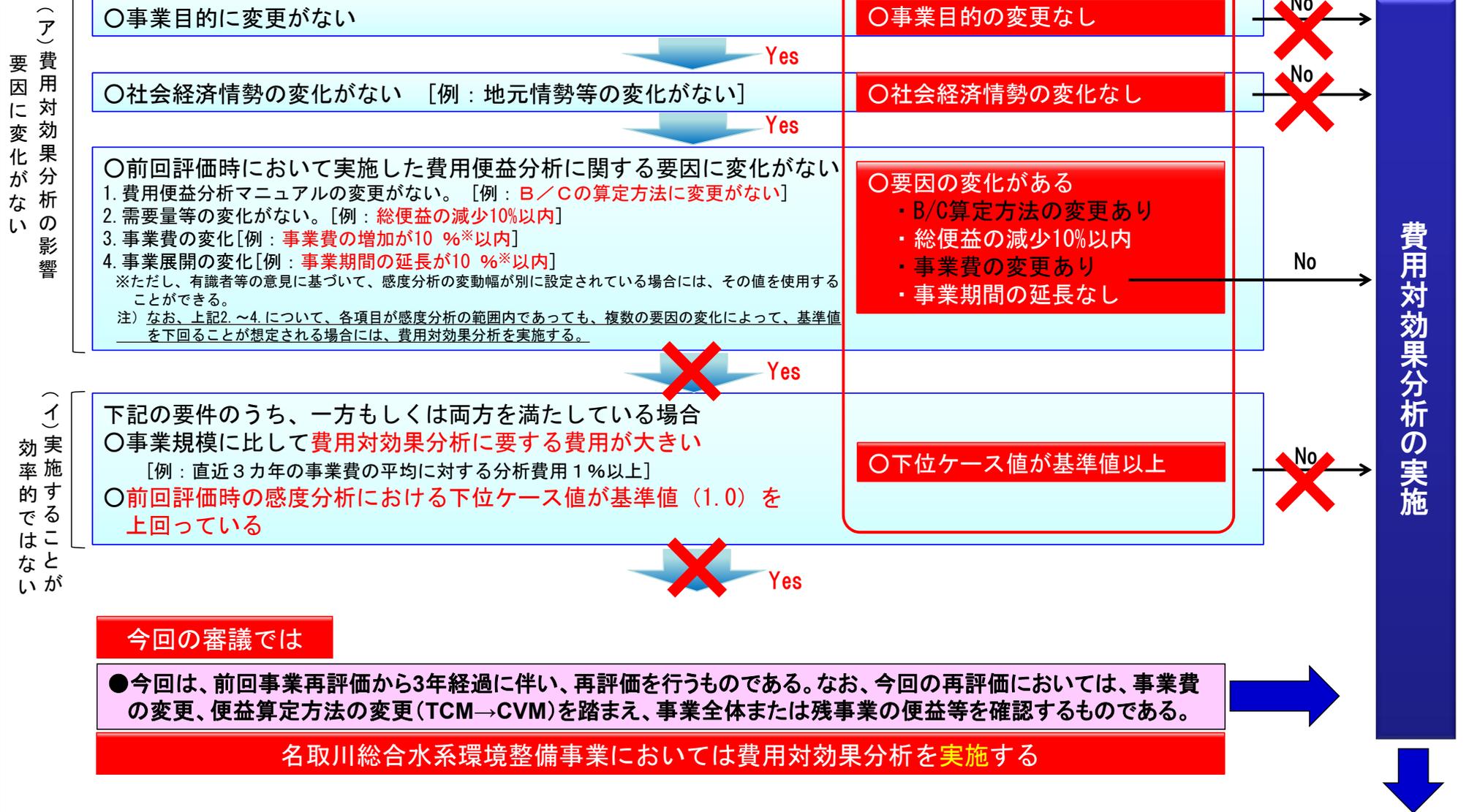
・事業再評価を実施する前年度までの3ヶ年の事業費の平均に対する分析費用の割合が概ね1%以上

・前回評価時に下位ケースの費用対効果が基準値(1.0)を上回っている

【参考】費用対効果分析の効率化

▶事業採択時において実施した費用対効果分析の要因に変化が見られない場合で、かつ、事業規模に比して費用対効果分析に要する費用が著しく大きい等費用対効果分析を実施することが効率的でないと判断できる場合にあっては、再評価実施主体は、費用対効果分析を実施しないことができるものとする。
 ▶ただし、以下の整理により、今回、名取川総合水系環境整備事業においては**費用対効果分析を実施する**。

【審議事項の重点化・効率化に係る確認フロー】



名取川水系河川整備学識者懇談会にて審議頂き、東北地方整備局事業評価監視委員会へ報告